

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SSMP2160 SCMP2160 SBMP2305 GEBS2103 SBMP2305 GELA2303 SPMP2361
2. 授業担当教員	橋本 好広/茅野 由紀/大嶋 泰子/久次 奈美/橋本 好広/ 姜 壽男		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期／秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 ソーシャルワーク演習Ⅱは「ソーシャルワークの展開」という位置づけとなり、ソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえて、ソーシャルワーク・プロセスの展開とプロセスにおいて活用される面接やプログラム分析、アウトリーチやチームアプローチといった技術についてトレーニングする。		
8. 学習目標	ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 1) ケースワークのプロセスについて説明ができる。 2) 基本的な面接技術について実践できる。 3) グループワークのプロセスと、ソーシャルワーカーの役割について明瞭な説明ができる。 4) グループワークにおける専門技術について実践できる。 5) コミュニティワークのプロセスについて説明ができる。 6) アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術についてその目的と方法について説明ができる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート 課題	課題1第2回～第5回の演習内容を振り返り学んだことをまとめなさい。 課題2第6回～第8回の演習内容を振り返り学んだことをまとめなさい。 課題3第9回～第14回の演習内容を振り返り学んだことをまとめなさい。 各課題について、A4用紙2枚にまとめなさい。また、提出については、原則としてそれぞれの課題が提示されている次の回にて担当教員に提出すること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房、2020.2 【参考書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職 (共通+社会専門)』中央法規出版、2020.12 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通)』中央法規出版、2020.12		
11. 成績評価の基準と 評定の方法	○成績評価の基準 ・6つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) ・6つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ・6つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) ○評定の方法 1. 演習への取り組み 40% 2. レポート(課題1～3) 60% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		

13. オフィスアワー		担当教員より初回の演習時に提示する。	
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅰの振り返り	事前学習	シラバスを確認し、ソーシャルワーク演習Ⅱの学習内容について確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅰでの学習を踏まえ、ソーシャルワーク演習Ⅱの自己の学習目標を明確にする。
第2回	人間（個人）の理解 ：エコロジカル、バイオ・サイコ・ソーシャルの視点について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	バイオ・サイコ・ソーシャルの視点についてまとめる。
第3回	面接技法 ：面接における適切な姿勢・態度について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	面接技法における、あるべき姿勢と態度についてまとめる。
第4回	面接技法 ：面接におけるコミュニケーションとして、基本的応答技法について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	面接技法における基本的応答技法についてまとめる。
第5回	ソーシャルワークのプロセス ：プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアについて事例をもとに理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題1の作成
第6回	グループワークにおけるワーカーの役割 ：展開過程に応じたワーカーの役割について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	グループワーク実践におけるワーカーの役割についてまとめる。
第7回	グループワーク技法(1) ：準備期、開始期における介入方法について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確化する。
		事後学習	グループワークにおける準備期・開始期に必要な技術についてまとめる。
第8回	グループワーク技法(2) ：作業期、終結期における介入方法について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	グループワークにおける作業期・終結期に必要な技術についてまとめる。 課題2の作成
第9回	コミュニティソーシャルワーク・プロセス ：支援の展開方法について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	コミュニティソーシャルワーク・プロセスについてまとめる。
第10回	アウトリーチ ：アウトリーチの必要性和実践方法について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	アプトリーチの意義と方法についてまとめる。
第11回	チームアプローチ ：コミュニティソーシャルワークにおけるチームアプローチの必要性和実践方法について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	チームアプローチの意義と方法についてまとめる。
第12回	コーディネーション ：コーディネーションの必要性和実践方法について理解する。	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	コーディネーションの意義と方法についてまとめる。
第13回	ネットワーキング ：コミュニティにおけるネットワーキングの必要性和実践方法について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	ネットワーキングの意義と方法についてまとめる。
第14回	社会資源の活用・調整・開発 ：社会資源の活用・調整・開発において、その必要性和求められる技術について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題3の作成
第15回	まとめ ：自己評価の言語化と課題の明確化	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで使用したテキストの該当箇所を確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。